

# 令和5年度 第4次清瀬市民地域福祉活動計画推進評価委員会概要

## 《会議概略》

日時 令和5年6月23日（金）10時～11時50分

場所 清瀬市コミュニティプラザ202室

出席 石崎勇仁 岩崎雅美 小滝一幸 後藤清 齋藤靖之 土屋テル子 長嶋潤  
林清 菱沼幹男 増田恵美子 宮田遥 麦倉稔 山村康一 渡邊浩志

欠席 赤川都

事務局 山下晃 新井勘資 星野孝彦 奥山裕司 関口美智子 松崎功 富田千秋 千葉美由紀

## 1. 開会

社会福祉協議会会長より挨拶

## 2. 委嘱状の交付

机上配布にて交付

各委員より自己紹介

## 3. 委員長及び副委員長の選任について

事務局 委員会設置要綱第2条第3項より、委員長及び副委員長の選任を委員の互選により選出したい。

委員 策定された計画を評価する場であるため、策定委員会に続き委員長に菱沼委員、副委員長に赤川委員を推薦する。

異議なしのため委員長に菱沼委員、副委員長に赤川委員が選任される。

事務局 本日欠席の赤川委員には事務局より事前に意向確認済である。

## 4. 計画素案について

### （1）計画の基本理念及び修正・変更案について

★ 資料3，資料4に基づき、事務局より説明

①評価シートの説明

②基本目標ごとに新規やポイントとなる事業を絞って説明

委員長 ご意見はいかがか。一言ずついただきたい。

委員 社協だよりは新聞折り込みであり、全戸配布できていないということだが、全戸配布している市報にあわせ社協だよりを配布できると良い。

事務局 数年前に市に申し入れたが、印刷の工程等で難しいという回答であった。ただ、他市町村では一体的に配布している所もあるので、協議は続けていきたい。

委員 社協の地域福祉コーディネーターと、各包括の生活支援コーディネーターの連携はどのようになるのか。18歳未満の子どもへの対応は子ども家庭支援センターが担い、18歳以上の人への対応は成人部署が担っており、18歳未満の子は地域というより母子の部署である。また、40歳以上の障害者、子どもがいる40歳未満の障害者など、年齢や障害の有無による対応が曖昧だと感じている。行政と社協の境界を無くさなければ、きめ細やかな支援にならないのではないか。

委員長 地域福祉コーディネーターの活動イメージについて説明をお願いしたい。  
事務局 ご指摘箇所は課題だと認識している。別々ではなく、一体的に取り組む方が効果は高く、地域への還元も大きくなる。人員配置及び生活支援コーディネーターとの連携については、地域支援チームをつくる等の今後の取り組みの中で、連携方法や協働方法を協議していきたい。

今年度後半にはモデル地域を選定するといった話し合い等、地域支援チームの取り組みの中で協議したい。

委員 コーディネーターが分かれているのは効率が悪いように見える。清瀬は狭く、顔の見える関係を築きやすいといった利点を活かさないのではないか。

委員長 他地域での整理の仕方では、生活支援コーディネーターは高齢者対象、地域福祉コーディネーターは対象を限定しない。その中で、地域づくりは共通するので、地域支援会議を行いながら協働していく。また、専門職が個別相談をしていく過程で、地域で孤立している人には、地域へのアプローチも必要でも難しい部分があったが、その部分を受け止める役割を地域福祉コーディネーターが担える。その仕組みを大事に、事例をもって検討していきたい。

委員 社協会員を増やしたいと思っているが、社協の認知度が低い。社協だよりが全戸に配布できるようになってほしい、また、どうすればできるか考えたい。

委員長 市報以外の方法も含め、社協での検討課題の一つとしてほしい。

委員 地域によっては、社協だよりを掲示している自治会もある。

委員 掲示はその場でしか見られないため、掲示箇所に持ち帰り用を用意するなりが必要であろう。

委員長 市報にも、特集記事を出すときがある。例えば、その時に社協を特集してもらうなど、行政と社協と一緒に事業を展開していることを周知できると良い。

活動を通して知ってもらうことも大切であり、地域福祉フォーラムを実施したことは大きなことである。取り組みを通して周知するということも検討して良いだろう。

その他、ご意見等いかがか。

委員 一点目、評価対象期間について、年度ごとの評価ではなく、今後も4月末となるのか。

二点目、進めていく取り組みに優先順位はあるのか。

三点目、財源について、会員加入を社協からの呼びかけだけでなく、社会福

社法人に協力を依頼し、広げていけると良いのではないかと。

委員長 今の点について、事務局の考えはいかがか。

事務局 一点目、委員会開催日に合わせた評価期間としている。新年度から始動した事業も示したく、今後も委員会開催日を基準としたい。

二点目、優先順位は定めていない。順位より、各部署が理念に沿った活動をどのように展開していけるかを重視していきたい。

三点目、社会福祉法人としての協力は貴重なご意見である。社協に近い層に働きかけるのは大切な視点。また、一般市民への働きかけとしては、暮らしの講座などで社協の紹介と会員加入を案内できると良い。

委員長 テーマ型募金という方法もある。社会福祉法人としても、応援する事業が明確になるので賛同されやすい。他、ご意見いかがか。

委員 社会福祉法人社会貢献事業として、ひとまず相談を実施しているが、相談実績は1.2件である。必要な層に取り組みが浸透してきていないと感じる。

また、自身の問題を認識できていない人も一定数いるのではないかと。実態をどう把握していくか、民生委員と連携することや、新たなネットワークをつくる必要があると考える。

はたらく相談会にも参加した。理解者を増やすには回数を増やすなど、アプローチの仕方を含め検討していきたい。

事務局 課題を社会福祉法人間で共有したい。自身の課題を認識していない人についても、サービスにつながる必要のある方へのアプローチ方法を社会福祉法人ネットワークで検討したい。

委員長 「相談」というとハードルが高く、こんなことを相談して良いのかと躊躇してしまう。来た人への相談の前に、支援者が家族等との会話から気づいたことをひとまず相談の担当者へつなげ、担当者の話を社協の地域福祉コーディネーターが受け止めるという視点があると良い。

委員 民生委員のコロナ禍での活動では、市民との接触を避ける代わりに簡単なメモを入れながら一軒一軒回った。市報には、担当民生委員も載る。しかし、担当地域住民から、市役所に担当民生委員は誰かとの問合せがあったよう。全戸配布の市報でも見てもらえていない。

自身が関わっている「きよせネクスト」が立ち上がった。ありがとう券についてなど、実施する中で知ってもらいたい。

委員 高齢になると覚えることをしなくなり、市に聞けば教えてもらえると思う人は多いだろう。

委員長 ロコミも大切である。その他、福祉教育の当事者スピーカーについてご紹介いただきたい。

委員 社協を通じ、福祉教育を依頼された。白状の使い方や、どういう時に声をかけてもらえる嬉しいかなどを話した。小学生などは真剣に聞き、手ごたえを感じた。

- 委員長 学校関連はいかがか。
- 委員 用語集に、「コミュニティスクール」を追加してほしい。今後でてくる言葉である。少子化の中、学校教育に関わる機会は貴重である。福祉教育は良い取り組みだと感じた。自身もヘルプマークを持っているが、障害は幅広く、知る機会があることは良いことである。
- 委員 自身は地域づくりの会の代表であるが、会の中で地域福祉活動計画を紹介できておらず、反省点である。
- 委員長 今後の活動の中で周知して行ってほしい。用語集については、各所管課と調整であるのか。
- 事務局 事務局で改めて精査したい。
- 委員長 学校関連の話から、学校の問題意識等あればお願いしたい。
- 委員 清明小の学校支援本部として活動しているが、地域の人が、退職後に活躍したいと思っても場がなく、力を持て余している印象。そういった方に学校支援本部に参加していただくと、やりがいになっており、活動前後で表情が違う。学校のためのものであるが、地域の人々の活躍の場としても機能してきていると感じている。
- 委員長 良い取り組みである。地域づくりの会ともつながっているのか。
- 委員 自身は下宿・旭が丘地域づくりの会にも参加している。様々な場面で互いに協力している。子どもがいないと、学校に入る機会もないため。
- 委員長 学校支援本部と地域づくりの会がつながるのは清瀬の利点である。他にご意見いかがか。
- 委員 自身は日本語教室、六小地区の自治会連合に所属しているが、福祉との接点が見えなかった。コロナ禍によりさらに感じた。うめのたけまつりも中止となり、途切れてしまった。学校・地域・団体のつながりの再構築を図っている。
- 地域イベントは、大規模なものは体力的にも厳しいため小さなものを複数回とし、定例化したい。例えば、高齢者と子どもの自転車教室や保護者との料理教室など。
- 日本語教室にきている外国人は移動が激しい。
- 委員長 団体と福祉の関係性について、社協から説明等あるか。
- 事務局 昨年度作成した外国人のヘルプカードは、国際交流会の協力無くしてはできないものであった。外国人も家族や生活など悩むだろう。必要な福祉サービスにつなげるにはどうすれば良いか、一緒に考えて頂きたい。
- 委員長 団体には可能なサポートをお願いしたい。全体を通しご意見いかがか。
- 委員 気になったこと一点目、「暮らしの講座」の内容からは、終活というマイナスイメージになる。高齢者のファッション講座や、高齢者と子どもの料理教室など、明るいイメージが良い。ファッション講座で、「服にお金をかけられない」という話があれば、メルカリがあると教え、そこからスマホ講座につなげるなど。また、講師に地域の人を招くと良い。

二点目、ひきこもりセミナーのメイン内容は何か。

良い取り組み一点目、認知症サポーター養成講座を市内全小中学校で完了したということか。素晴らしいことである。飯能では、DV 講座のパープルリボンテーマにアート展を開催していた。講座実施後にも福祉の枠を超えた何かをできると面白いものとなるだろう。

また、子ども食堂のつくり方講座、LGBTQ の講座も素晴らしい。2つに共通していることは、当事者からの発案であり、社協に関わっていない人が関わるきっかけともなる。

コミュニティカフェについては、特技バンクに登録した人がやると良い。

また、計画の重点事項はあっても、具体的な活動がどういったものなのか見える化できていない。写真やビジュアルからわかるようにすると良い。会議資料についても、会議で使ったものを Facebook に掲載するなど、参加者の感じたこと、学んだことを情報発信してほしい。

委員長  
事務局

事務局から説明を。

暮らしの講座については、他部署含め検討したい。福祉的要素にとらわれず、幅広い視点を持っていきたい。

ひきこもりセミナーについては、最終的には当事者の思いをくみ取っていくこと、当事者が社会と接点をもっていく方法をどうするかを目標としている。まず、当事者との接点をもつためにも、悩んでいる家族の気持ちの受け止めや、家族の気づきを得るような内容のセミナーを第一段として考えている。セミナー後には受講者へアンケートを実施し、家族との接点も増やししながら支援につなげていきたい。

認知症サポーター養成講座については、平成 22 年頃から始まり、平成 25 年頃には市内全小学校 4.5 年生で完了、その後中学校で開始し、令和 4 年度に全校で完了した。小学校の講座では、高齢者の記憶力について例を用いてわかりやすいように講話している。講座後には、感想文を自宅で書いてもらい、保護者と講座の内容や感想を共有してもらっている。

認知症サポーターとして、勇気をだして高齢者に声をかけてもらいたい。

コミュニティカフェについては、高齢者の孤食解消を目的として、毎週木曜日に開催しているグループと、月 1 回外国人の方と開催しているグループがある。のぼり旗を見たお客さんが、今ではコミュニティカフェで働いている例もある。相談があれば、包括職員が出向くなど、相談にもつなげられる場として機能している。

委員長

ひきこもりセミナーは単発で終わらせることなく実施してほしい。また、他事業との連動性も考えながら、事業を推進してほしい。

他地区社協の動向も含め、ご意見いかがか。

委員

地域福祉コーディネーターが配置されたら、関係性づくりから始め、地域のニーズを拾い、手の届かない方への支援が行えることを期待している。

広報については、他地区でも課題である。活動報告の見せ方を文章から動画に変更したり、地域の中で絵が得意な方に描いてもらったり、地域の中で工夫しながら検討していただきたい。

委員長 SNS に関しても、若者は Facebook をみない。Twitter で周知する社協もある。行政としてご意見等いかがか。

委員 行政と社協は密接なつながりがあるので、意見は行政としても参考とし、協力しながらやっていきたい。

委員長 新たな取り組みにもお力添えいただきたい。他、お気づき事はあるか。なければ、議事は終了とする。その他、事務局よりお願いしたい。

## 5. その他

事務局 議事録については、委員長・副委員長に確認いただき確定とし、確定後はホームページで公開とする。

今後の課題や方向性を来年度以降の事業計画につなげていきたい。

## 6. 閉会

社会福祉協議会事務局長より